

備前市事務事業評価シート

(平成20年度事業)

事業の概要			
事業開始年度			
総合計画	大項目	基本目標	01 安全で快適に暮らせるまちづくり
	中項目	基本施策	01 生活しやすいまちづくり
	小項目	施策	14 ごみ処理
事務事業名			02 ごみ処理施設管理事業
根拠法令・規程等		廃棄物の処理及び清掃に関する法律	
担当課(室)	環境課		
職・氏名	衛生係長・森本和成		
電話	64-1821		

事業の実施	
対象(誰・何に対して)	一般廃棄物の処理を必要とする市民・市内事業者
目的(何のために)	適正かつ効率的に処理する事により、生活環境の保全につなげる。
行政活動(どのような方法で)	施設の維持管理を行う。 不燃ごみの選別を行う。
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	施設の安定的な稼働。 ダイオキシン類等を排出基準以下で適正に焼却する。 不燃ごみの再資源化、埋立処分量の削減。

事業の実績					
活動	実施項目	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
	クリーンセンター備前ごみ焼却量	t	7,406	7,359	7,081
実績	日生清掃工場ごみ処理量	t	825	769	726
	備前最終処分場埋立量	t	2,477	2,109	2,096
	日生最終処分場埋立量	t	302	323	302
	不燃物前処理場資源化量(金属・びん)	t	183	308	279
業績	直接事業費	千円	153,194	136,771	128,996
	必要人員人件費	千円	8.30人	7.34人	41,756
	事業費	千円	203,584	184,814	170,752
	国・県支出金	千円			
	受益者負担金	千円	68719	62681	65237
	総収入	千円			
その他()					
一般財源	千円	134,865	122,133	105,515	
受益者負担比率	%	33.8%	33.9%	38.2%	

結果指標①	結果指標名	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
	クリーンセンター備前ごみ焼却量	t	7,406	7,359	7,081
結果指標②	対前年比	%	99.4%	96.2%	
	活動コスト	円	111,621,000	93,120,000	93,876,460
結果指標③	対前年比	%	93.2%	94.4%	
	活動コスト	円	26,179,000	27,904,000	22,227,372
結果指標④	対前年比	%	99.0%	105.2%	
	単位当たりコスト	円	31,732	36,286	30,616

事業の成果					
資源化率	成果指標名	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
	目標値(A)		15.0%	20.0%	21.0%
	実績値(B)		10.5%	19.8%	22.1%
達成率(B/A)			70.0%	99.0%	105.2%
到達目標年度 平成25年					
成果指標設定の考え方・式や説明					
資源化量/最終処分場搬入量(焼却灰を除く)					

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりのコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		妥当性評価<A~E>	
妥当性の評価	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input checked="" type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 類似した事業がある	妥当性評価<A~E> A 判定理由・課題認識 関係法令に基づき適正な処理を行っている。備前ブロックごみ処理広域化の動向に注視しながら、施設の維持管理を行っている。
	市民ニーズ	<input type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い <input type="checkbox"/> 説明	
効率性の評価	コスト	<input checked="" type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価<A~E> C 判定理由・課題認識 コスト削減に努力しているが、老朽化等による補修費など維持管理コストがかかる。必要不可欠な事業であり、これ以上のコスト削減は難しい。
	目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない	有効性評価<A~E> B 判定理由・課題認識 ごみ処理の有料化(備前地域)以後、ごみの処理(焼却)量は減少してきている。施設の延命、処理コストの削減を図るため、ごみの資源化・減量化を引き続き行っていく。
有効性の評価	市民参画度	<input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている	

平成21年度の状況		目標値	結果指標量①	6,800	結果指標量②	700	成果指標量	22
状況	状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
	説明	ごみの資源化・減量化の向上を図るため、市民に適正なごみ処理の啓発を行う。雑紙の回収、レジ袋の有料化について検討を行う。						

総合評価		評価区分<A~E>
施設の延命、処理コストの削減を図るため、ごみの資源化・減量化を引き続き行っている。施設の維持管理については、備前ブロックごみ処理広域化の動向に注視しながら行っている。		B

平成22年度以降の方向性・内容		方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
改善がある場合	説明	ごみの資源化・減量化の向上を図るため、市民に適正なごみ処理の啓発を行う。雑紙の回収、レジ袋の有料化について検討を行う。							
	評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果					
効率性	施設の計画的な維持補修	毎年度	施設維持管理コストの削減						
有効性	資源ごみ回収の充実	毎年度	家庭ごみの排出抑制、資源物のリサイクル						
有効性	埋立ごみ選別の充実	毎年度	処分場の延命、資源物売却収入の向上						